6P-5

VMSにおける日本語電子メイルシステム

日高孝寛, 三浦章暢, 藤野衛
日本ディジタル・イクィップメント(株)

1 はじめに

日本語 VMSMAIL (JMAIL) とは, 同一システムあるいは同一ネットワーク内で, 日本語のメッセージを1人または複数の利用者に対し送信, 受信などのできるユーティリティーである。またこのメイル・システムは, ユーザー・プログラムから呼ぶ事も出来る。

2 日本語 VMSMAIL の機能と使い方

以下に日本語 VMSMAIL の機能の一部と使い方を簡単に説明する。

2.1 メイル受信の通知

DECnet-VAX のノードとして起動されているシステムにログインしている時にメイルのメッセージを受け取ると, ターミナルにメイルを受信した事を知らせる以下のようなメッセージがでる。この例では, ノード NODE1 上の利用者 TANAKA がメッセージを送っている。

New mail on node NODE2 from NODE1::TANAKA "___ 田中健児 ___"

2.2 メイル・メッセージを読む

JMAIL を起動した時点で, 新しいメイル・メッセージを受け取っている場合,

新たに n 通のメッセージが届いています。

というメッセージがでる。 READ コマンドでこれを読む事ができる。JMAIL 使用中に新しいメイル・メッセージを受け取った場合, READ/NEW コマンドを使用する。

2.2.1 メイル・メッセージからファイルを作る

メイル・メッセージを順編成ファイルにコピーするには, EXTRACT コマンドを使う。 ヘッダー情報をつけない時は, /NOHEADER 修飾子を使う。既に存在するファイルに追加する時は, /APPEND 修飾子を使う。

2.3 メイルの送信

メイルを送信するには, JMAIL ユーティリティーの SEND コマンド, または DCL の JMAIL コマンドを使用する。

2.3.1 DCL コマンド JMAIL を使う

DCL コマンド上にファイル指定, 利用者リストを指定する事によりファイルを1人または複数の利用者に送る事が出来る。ファイル ABC. TXT を, 同じノード内の利用者 TANAKA, ノード NODE1 内の利用者 WATANABE に送る場合,

```
$ JMAIL ABC.TXT TANAKA,NODE1::WATANABE
```

とする。表題をつけるには, /SUBJECT 修飾子, コピーを自分に送るには, /SELF 修飾子を使う。

2.3.2 JMAIL ユーティリティーの中からメイルを送る

DCL コマンド JMAIL により JMAIL を起動する。そして JMAIL コマンド SEND によってメッセージを送信する。JMAIL は, 宛先, コピーの宛先, 表題を聞いて来る。そしてその後メッセージの内容を入力し CTRL/Z を打ち込むと, メッセージは送られる。

(例)
```
JMAIL> SEND
To:     NODE1::SUZUKI
CC:     NODE2::WATANABE
Subj:   次回の会議についてのお知せ。
   .......
```

2.3.2.1 エディタの呼びだし

エディタを呼びだして, 送信するメッセージをエディットする事ができる。その場合, 修飾子 /EDIT を使う。呼びだすエディタは, JMAIL コマンド SET EDITOR で設定する。

2.3.3 REPLY, FORWARD

送られてきたメッセージに対し, REPLY, FORWARD を行う事もできる。REPLY では, 自動的に送信先は送られてきた利用者, 表題は, 元の表題に RE: の付いたものとなる。 また CC: プロンプトに対し, コピーを送る利用者名を指定する事もできる。FORWARD ではメッセージをそのまま他の利用者に転送する事ができる。どちらでも /EDIT 修飾子を使ってメッセージをエディットする事ができる。

(例)
```
JMAIL> REPLY
To:     NODE1::TANAKA
CC:     NODE2::WATANABE
Subj:   RE: 次回の会議についてのお知せ。
```

2.4 ヘッダ情報

VMSMAIL のヘッダ情報には, 送信者名, 受信者名リスト, コピー受信者リスト, 表題が含まれる。

(例)
```
From:   NODE1::TANAKA        "___ 田中健児 ___"
```

JAPANESE ELECTRIC MAIL SYSTEM ON VMS

Takahiro HIDAKA, Akinobu MIURA, Mamoru FUJINO

Nihon Digital Equipment Corporation

To:　SUZUKI,WATANABE,@MEETING
CC:　NODE2::YAMADA
Subj:　会議の日程変更について。

また送信者名の後ろには個人名が付けられている。上の例の "___ 田中健児 ___" である。これは JMAIL コマンド SET PERSONAL_NAME によって付ける。

2.5　ディストリビューション・リスト

先の例にある，@MEETING は，ディストリビューション・ファイルの指定である。（省略時のファイル・タイプは，DIS）ディストリビューション・ファイルの中には，送り先の利用者名を1行につき1人づつ書いておく。送り先に，@MEETING と指定すると，そのファイルに書いてあるすべての利用者にメッセージが送られる。

（ディストリビューション・ファイルの内容の例）
NODE1::KUBOTA
NODE1::TAKENAKA
NODE2::TACHIBANA
NODE2::MORITA
NODE3::SUGIYAMA
.....

2.6　メイル・データ・ベース

VMSMAIL には，プロファイルと呼ばれるメイル・データ・ベースがある。このデータ・ベースの中には，そのシステムにいるすべての利用者に関する，読んでないメイルの数や，個人名，メイル・ディレクトリ，エディタ名，プリント・キュー，プリント・フォームなど利用者が設定できる情報などが入っている。

2.7　メイル・ファイル

メイル・メッセージは MAIL.MAI というインデックス・ファイルに格納されている。利用者は自由に新しいメイル・ファイルを作る事ができ，メッセージを移動できる。

2.8　フォルダ

新しく受信したメイル・メッセージはすべて NEWMAIL というフォルダに格納される。一度でも読むとそのメッセージは MAIL というフォルダに移される。また利用者は新しいフォルダを作る事ができ，フォルダ間で自由にメッセージを移動できる。DIRECTORY／FOLDER コマンドで現在のメイル・ファイルの中にあるフォルダの一覧を見る事ができ，SELECT コマンドでフォルダを選ぶ事ができる。

3　コーラブルなメイル・ルーチン

いくつかのレベルのコーラブル・ルーチンが供給されている。利用者は，これらのルーチンを呼びだす事により，独自の メイル・インタフェースを作る事ができる。

3.1　コーリング・シーケンス

コーラブル・ルーチンのコーリング・シーケンスは以下のようになっている。

status = MAIL$routine_name (context, input-item, output-item)

(1)　CONTEXT

ルーチン MAIL$xxxx_BEGIN でイニシャライズし，それ以降はイニシャライズされた値を使い，他のルーチンを呼びだす。

(2)　INPUT-ITEM

ルーチンへの要求コードのリスト。

(3)　OUTPUT-ITEM

ルーチンからの返り値，情報などが書き込まれる。

3.2　コーラブル・ルーチン

コーラブル・ルーチンには以下のようなものがある。

3.2.1　ファイル・アクセス・ルーチン

メイル・ファイルへのアクセス，メイル・ファイルを作る，メイル・ファイルに関する情報をえる，などのためのルーチンである。

3.2.2　メッセージ・アクセス・ルーチン

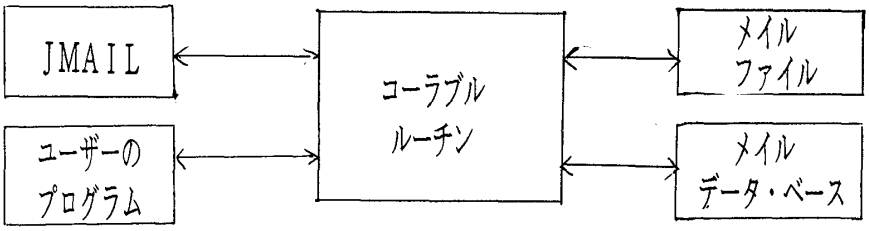
メイル・ファイルをオープンした後，メッセージへのアクセス，操作，などのためのルーチンである。

3.2.3　センド・ルーチン

メッセージ送信の初期化やメッセージの送信に使うルーチンである。

3.2.4　データ・ベース・アクセス・ルーチン

メイル・データ・ベースへアクセスするためのルーチンである。

3.3　メイル・データ・ベースとメイル・ファイル

コーラブル・ルーチンにおいて，メイル・データ・ベースとメイル・ファイルはJMAIL ユーティリティーと共通に使用できる。